平成5年5月7日

暮らしと憲法とのかかわりについて考える

豊島区憲法記念のつどい

立教大学教授 新藤宗幸氏を講師に迎え、講演会を開催

７日、豊島区民センター(東池袋１－２０)で、恒例となった『豊島区憲法記念のつどい』が開催された。今年で１８回目。

豊島区では、昭和５１(１９７６)年以来、暮らしと憲法とのかかわりについて考える機会にしようと、毎年、各界から講師を招いて講演会を開催している。

今年のテーマは『高齢型社会をともに生きるとは』。講師は、立教大学教授で、本区の行政情報公開審査会委員としても活躍中の新藤宗幸氏。

「憲法を暮らしの中でどう生かしていけるのかということを、高齢化の急速な進行との関連で考えていきたい」と話し始めた新藤氏は、「地方自治の理念が必ずしも生かされてきた訳ではない」という憲法状況の下で、「高齢型社会の問題は、地域社会全体として考えていく必要がある問題」と主張。１９９５年に１４％を超える日本の高齢化の進行状況等を踏まえ、実例の紹介や欧米各国の状況との比較を交えながら、今後、地域社会に一次的責任を持つ基礎的自治体としての特別区が果たしていかなければならない役割等について講演した。

会場を埋めた約３００人の区民らは、同氏の実態把握に基づいた約１時間２０分の講演に終始聞き入っていた。

また、講演終了後には、聴覚障害を持つ少年たちの青春をかけた感動の映画「遙かなる甲子園」（大澤　豊監督）が上映された。

問合せ　総務課 総務係